

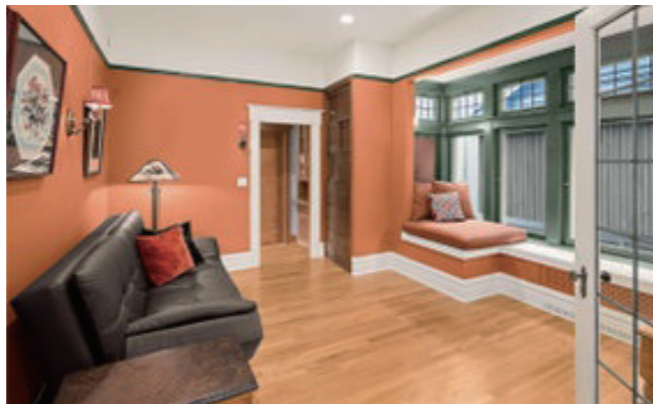


# 2024・SUMMER NEWS LETTER

Reform.Apple おかげさまで24年目を迎えることができました  
米国・ノースウエスト地区の住宅地 SEATTLE ワシントン州・シアトル  
シアトル、デザイン・リモデル住宅視察ツアーに参加 (リモデル:住宅の全面的な改修)

7年ぶりのシアトル、米国ワシントン州シアトル近郊のマスタービルダー協会が毎年開催するリモデル住宅の視察とカンファレンスに参加しました。

シアトル近郊で1億円以下の住宅を見つけることは不可能に近い。数億円かかる新築の市況は約2割程度、既存住宅のリモデル市場は好調。



米国取材：大竹 清彦



## 野木町のための選択肢 2024 第2弾★首長希望候補者 interview 【野木町の合併について by 黒川ひろ氏】

8月4日野木町町長選挙に向け多忙な日々を送る黒川氏にインタビューの機会を得ました。  
Q: 町民に関心の高い「町の合併」政策について？  
A: 今春、ある新聞社に「小山市との合併視野」と掲載されたが結論を言えは「近隣市町との合併ではなく持続可能な町を目指す。」ということです。将来、小山市・栃木市による中核市が実現する時には、検討する必要があると考えます。



その場合、民意を反映するための住民投票を実施することは必須です。私は栃木県は宇都宮に政治と経済が一極集中し過ぎと受け止めています。群馬県のように前橋市(県庁所在地)と高崎市(経済都市)、福島県の福島市と郡山市も2大都市を実現しています。わたしは、栃木県全体の発展と県北の一極集中の解消に「県南の中核都市」の実現は必須と考えます。野木町としては合併云々の前に独り歩きできるように生活環境面の整備経済基盤等を構築していくことが重要です。今回、皆様のご声援にお応えするため立候補希望を表明した次第です。ご理解いただけると幸いです。

## 日本の住宅はどうなる？ 日本の住宅の維持向上に向けて (第28回)

「思わず目に留まる…」



1位	和歌山	21.2%	25	石川	15.6%
2	徳島	21.2	26	北海道	15.6
3	山梨	20.5	27	福井	15.5
4	鹿児島	20.4	28	新潟	15.3
5	高知	20.3	29	福島	15.2
6	長野	20.0	30	熊本	15.0
7	愛媛	19.8	31	富山	14.7
8	山口	19.4	32	奈良	14.6
9	大分	19.1	33	佐賀	14.5
10	香川	18.5	34	大阪	14.3
11	岩手	17.3	35	茨城	14.1
12	長崎	17.3	36	全国平均	13.8
13	島根	17.0	37	兵庫	13.8
14	栃木	16.9	38	山形	13.5
15	群馬	16.7	39	京都	13.1
16	青森	16.7	40	宮城	12.4
17	静岡	16.6	41	福岡	12.3
18	岡山	16.4	42	千葉	12.3
19	三重	16.4	43	滋賀	12.1
20	宮崎	16.3	44	愛知	11.8
21	岐阜	16.0	45	東京	11.0
22	鳥取	15.8	46	神奈川	9.8
23	広島	15.8	47	埼玉	9.4
24	秋田	15.7	48	沖縄	9.3

★全国平均は13.8%。栃木県は16.9%の空き家率

増え続ける「空き家」。今春の総務省の速報では、全国でやはり前回調査から50万戸増え、空き家総数は900万戸に手が届く数字になったようです。放置空き家は20年間で1.8倍に増えた。日経の資料による都道府県別で空き家率が最も高かったのは、和歌山県と徳島県。栃木県は14位と決してよろしくない順位だ。このようなマクロな数値よりも現実的なミクロな視点で見た場合地元ではどうか？ いくら「調査」しても一向に進まない。紙面の制限で詳しく紹介できない「空き家対策」がある。ヒントは「住み替え」だ…。日本独自の「終の棲家」を手放し「老後のための専用住宅」への「住み替え」。現在の家と等価交換は無理でも大胆な補助金

政策や専用地、医療機関などの提携で不可能ではないという。米国の「リタイアメント・ハウス」のような上級層のための高級リゾートではなくごく普通の「住み替え専用住宅」建設だ。安心感と夢を与えてくれる話だ…



この画像は旧友の実家の空き店舗。職業柄、目に留まるのが建物の構造や下地。外部からは鉄骨の建物に見えたが、木摺りに土壁の下地が見えビックリ。テナントの「入れ替え」って住居の「住み替え」の考え方にも応用できそう… (次回につづく)

## アメリカン住宅様式史 (第37回) 《モダン(近代)様式・1920-1940》



いつの時代もそうだが、当時のリベラルな建築は、現在のグローバルISTのように伝統的な人々に混乱と分断、そして社会の破壊を生み出す。1910年にヨーロッパで刊行されたフランク・ロイド・ライドの書籍は「建築の国際的共有運動」のきっかけとなっていた。そしてスコットランドのマッキントッシュ、イングランドのチャールズ、ベルギーのヘンリー、ドイツのベーレンス、オーストリーのロース、オランダのウッド、フランスのペレーらは、すでに第一次世界大戦前にモダン様式のための新建材と新工法に取組んでいた。そして大戦後これらモダン(近代)建築は、従来の伝統的な米国のクラシックデザインと当然対立することとなった。



モダン(近代)様式は、伝統的な建築様式から装飾を剥ぎ取ったものが多い。この様式の特徴は非対称的で全体的に水平ラインを重視し外壁の仕上げに凸凹は少なく平坦だ。ラリーコラム(コンクリート流込み)やガラスブロック、ラップ・アラウンド・ウィンドーが建物に変化を与える。

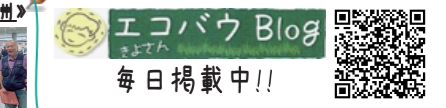
(左上のパス図のように)コーナーに2面採光の窓を、玄関のキャノピー(水平屋根)が水平を協調する。昭和50年代、日本でもこのモダン様式の似非コンクリート住宅が流行しかけたが、すぐに飽きられた。また、モダン様式のインテリアは、凝った装飾のアルデコと混同されるが少々違う。実際のモダン様式の住宅ではシンプルな家具や装飾に出会うことが多い。



※全て筆者撮影 (次回、インターナショナル様式)

## ㈱アップル、社員が参加した講習会・イベント

- 5/9(水)【木造建築の耐震構造、補強設計の実務セミナー】宇都宮 主催：日建学院
- 5/22(水)【CSPI-EXPO・建築生産性向上展】幕張メッセ 主催：全国土木施工管理技士連合会
- 6/26(水)【第3回・地域防災EXPO/自治体・公共Week2024】東京BIビル 主催：RXJapan自治体公共事務局



エコバウ Blog 毎日掲載中!!